

# 健康福祉常任委員会

## 私立保育園協会と懇談(報告)

11月4日、健康福祉常任委員会は戸田市における民間保育園の現状を知るため、私立保育園協会を招き、懇談を行いました。

戸田市私立保育園協会から令和3年10月20日付けで「令和4年度戸田市への施策並びに予算編成に対する要望書」が提出されており、その内容が示されました。

昨年に引き続き、新型コロナの感染拡大を受け、子どもだけでなく職員の安全を守らなければならない状況が続いています。子どもを預ける保護者自身の不安にも職員が対応しています。仕事を解雇され保育基準を満たせなくなった保護者や感染不安があるものの働かないと暮らしていけないといった悩み。また保育内容の中で、3密を避けることは不可能であり、むしろ触れあいながら保育することは「子どもにとっての栄養」という話もあり、コロナ対策で密を回避しろと言うなら、これまでの「面積基準の見直し」や「子ども30人に対し、保育士1人」という基準を変えて欲しいと強く訴えられていました。

保育園の様子については、マスクで顔色や表情を確認できないことで、健康管理にも課題があるとのこと。またイベントの再開は、キッチンとした保育目標の達成が出来るよう改めて検討しているとのことでしたが、保護者の考え方に対応するという意味では昨年よりも保育士の説明責任が求められ、仕事量が増えているとの声もありました。

課題が山積している中で最も大きな問題は、深刻な人手不足。特に戸田市は、近隣自治体における処遇格差が大きな課題となっており、現在は「保育士宿舎借り上げ支援事業」で保育士の処遇改善を行っていますが、期限が今年度いっぱいであり、来年度は保育士が離れていく要因となることから引き続き支援を行っていくよう求めてきたところです。また昨年、国からの補正予算でコロナ対策に使用する物品や保育士の残業代が1事業50万円支給されましたが、「少しでもありがたいと感じました。現在、3回目の補助金を人件費のみに充てるようにと聞いていますが、保育園によって使い方を選べるようにして欲しい。」との要望がありました。

今回の懇談を通して、委員より「健康福祉常任委員会として、年間活動テーマだけでなく市に対する要望書の提出も検討してはどうか」との提案があり、私は賛同しました。私立保育園の安定的な運営と保育士の人材確保、質の向上を支えるために、懇談内容をまとめ支援策を検討していきます。

健康福祉常任委員会 むとう葉子